

5月の植物

コンニャク (サトイモ科)

学名： *Amorphophallus konjac* K.Koch

先日、家の敷地に珍しい花が咲いた。濃い赤紫の肉穂花序を同色の仏炎苞が包む独特の花は、人の目から見るとグロテスクな出で立ちで、花が終わった今も、ほとんど変わらない姿で立っている。よく見ると肉穂の下部に雌花が密生し、上部に雄花が密生している。その上に伸びているのは付属体と呼ばれる部分だ。

この花の正体はコンニャク。日本では古くから栽培される多年草。スーパーでおなじみの食材だが、食用になるのは、地中の球茎(蒟蒻芋)。春に球茎(子芋)を植え、冬は屋内に貯蔵し、繰り返して3~4年で収穫する。花は5月~6月、植えて5年目くらいに咲くことが多いので、産地でも見ることは珍しい。

山間部では、今でも蒟蒻芋から、自家製のこんにゃくを作っている地域がある。私が住む脊振町でも、昔ながらの作り方を残していこうと活動されている方々がいらっしゃる。そこで頂いた蒟蒻芋を部屋で保管していたら、いつの間にか20~30cmの芽を出していた。驚いて、慌てて植え直したら、あっという間に花が咲いたという訳だ。

蒟蒻芋と、わら灰だけで作る刺身こんにゃく。機会があれば、ぜひ一度ご賞味を。絶品です。

(文責 神代智子)

